

# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



びわ湖展望

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「荒天時対応」

【所長 新庄 正幸】



総括責任者の校長先生には、非常に緊張した判断が迫られる場面があります。船長はもとより、所長・所員にとっても天気図とにらめっこの日々が続きます。琵琶湖に白波がたつほどの強風で、船が揺れに揺れることがよくあります。

例えば、針路は長浜ですが、入港できない時は今津港か琵琶湖大橋港のどちらを停泊港にするかを校長先生に判断していただくことがあります。最後は、琵琶湖の気象状況を見極めた船長の腕に任すしかありません。

翌日のカッター活動の可否についても難しい判断が必要です。白波が立つほどではなくとも、風力があり港の吹き流しは真横を向いていることもあります。総括責任者の校長先生にはカッター活動会場に出向いてもらって判断いただくこともあります。

その結果、カッター活動が計画通りに行えたり行えなかつたりしますが、子どもたち同士がよく交わり、友情を深めるすばらしいわくわく航海であることを願っています。もちろん、乗船所員が全面的に情報提供や判断のお手伝いをさせていただきます。荒天等の危機管理時にこそ的確に動ける所員であれと指導しています。そして、「この所員が担当でよかった。」「次の航海もお願いしたい。」と感じていただけるよう尽力させたいと考えています。

おうちの方の送り出しや教師のサポート、船員や食堂スタッフの働き等々目に見えないたくさんの営みにも目を向けられる体験学習でありたいです。そこで初めて、「おかげさまで」という感謝の気持ちが芽生えてくるでしょうし、「ありがとう」「すみません」等の豊かな心の醸成が図られていくものだと思います。豊かな心を醸成し、何より実践力を求める「かきくけ航海」の大切さを痛感しています。

### かきくけコーナー

第5回航海でのことです。乗船一日目の夜の打合せ後で、先生方の「びわ湖環境学習」に対する意識の高さに驚かされました。翌日の活動説明時、担当教師が「？をいっぱい見つけ、終わりにそれを交流しましょう。そして次の学習を見つけてみましょう。」と投げかけられました。そして、学習のまとめでは、「まず2分で自分の思ったことを近くの3人に話し、3人の思いを聞きましょう。」「では、みんなの前で話せる人、立ちましょう。」「2回目、話せる人」等々と問いかけられました。その結果、子どもたちは、「プランクトンをもっと見つけたい。」「上から見ると透明なのに横から見ると濁っているのが不思議だった。」「少し濁っているのに遠くまで見えるのはなぜ？」などの思いを持ちました。子どもたちの心が動いている証拠です。